

## ポンドと逆張り

英国は先週から選挙戦に突入した。12月12日投票の総選挙だ。今のところジョンソン首相率いる保守党がリードしているようだ。保守党の票を食うと見られたBREXIT党が保守党と重なる選挙区の候補者擁立を断念したことも影響している。

市場では合意なきBREXITの可能性が減り、合意有りBREXITの可能性が高まったとして、ポンドが上昇した。1か月前に比べるとポンドドルは一時1000ポイント近く上昇し、1.30を超えた。直近では1.28半ば近辺で推移している。

為替先物市場のポジションを見てもポンドショートポジションは大分整理された。ただこれが全体の市場のポジションを反映しているとは限らない。市場参加者の先物のヘッジポジションや投機ポジションの取引は大部分が銀行と行っているからだ。これらは当然ながらディスクローズされない。

ただ1000ポイント近くの変動で、投機ポジションは当然のこと、ヘッジポジションも一旦はポジションを仕切り直しする者が増えたことは想像できる。

2016年の国民投票によるBREXITの決定以来、様々なポジションが錯綜した。先の見えない不確実性から輸出入業者や投資家は先物為替でのヘッジ、通貨オプションでのヘッジ、さらに投機為替も先物で利益を狙った。全体のポジションの把握は全くの不可能な状況になり、推定すら無意味になった。

こうした状況がある程度整理され多少楽になったムードが市場には漂う。合意有りBREXITの可能性の高まりで、不確定要因が減ったような気になるからだ。ただよく見ると、合意有りのBREXITのケースでも具体的な中身は不明だ。経済的影響も把握できない。つまりポンドは依然として上下どちらにも大きく変動する可能性がある。

選挙結果も保守党勝利の場合でも議会やEUとの詰めで躓く可能性はある。労働党勝利の場合は国有化や労働者の株主化などドラスティックな政策が待っている。市場へのインパクトは強烈だ。

ドルポンドが1.30を超えて一服しているのは、一山超えても先にはまた山が見えることを反映している。

それにBREXITの国民投票以降、事前の予想通りにいかないことが多い。いつも予想を裏切ってきたBREXITなら、選挙の予想が逆に出てもおかしくはない。労働党の勝利？まさか。